

令和6年度発達障害児者地域生活支援モデル事業

ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修事業 報告書

2025年4月

社会福祉法人グロー 滋賀県発達障害者支援センター

目次

第1章 事業概要.....	3
1-1 本事業の経緯.....	3
1-2 事業目的.....	4
第2章 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修.....	5
1-1 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修の実施.....	5
1-1-1 研修内容.....	5
1-1-2 研修参加者.....	7
1-1-3 研修事後のアンケート調査.....	9
1-1-4 研修事後のアンケート結果.....	9
第3章 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修フォローアップ研修.....	17
1-1 ニーズ別研修の実施.....	17
1-1-1 事前アンケートの実施.....	17
1-1-2 事前アンケート結果.....	17
1-1-3 ニーズ別研修事前案内の送付.....	19
1-1-4 ニーズ別研修参加者.....	21
1-1-5 研修時の「全体ワークのためのアンケート」の実施.....	21
1-1-6 研修時の「全体ワークのためのアンケート」結果.....	21
1-1-7 事後アンケートの実施.....	23
1-1-8 事後アンケート結果.....	23
1-2 家族支援情報交換会の実施.....	27
1-2-1 研修で使用する資料についての案内の送付.....	27
1-2-2 研修内容.....	30
1-2-3 研修参加者.....	31
1-2-4 研修時の様子.....	31
1-3 実施後の結果・考察.....	32
第4章 オンラインを使用したペアレント・トレーニングの実施.....	33
1-1 実施に至る経緯.....	33
1-2 実施内容.....	33
1-3 実施結果.....	34
1-3-1 参加率.....	34
1-3-2 子どもの評価の変化(HSQ).....	34
1-3-3 保護者の評価の変化(養育スタイル尺度).....	35
1-3-4 事後アンケート.....	35
1-4 考察・今後の課題.....	36

第5章 家族支援担当者向け研修コンテンツ	38
1-1 作成の経緯.....	38
1-2 研修コンテンツの作成.....	38
1-3 視聴後アンケートの実施.....	40
第6章 ペアレント・トレーニング実施市町へのアドバイザー派遣	41
1-1 H市へのアドバイザー派遣までの経緯.....	41
1-1-1 H市のペアレント・トレーニングプログラム.....	41
1-1-2 現状の課題.....	42
1-2 H市へのアドバイザー派遣	42
1-2-1 実施スケジュール	43
1-2-2 実施内容	43
1-3 実施結果・考察	45
第7章 今後の方向性について	46
1-1 ファシリテーター養成研修、フォローアップ研修、ニーズ別研修の実施.....	46
1-2 ペアレント・トレーニングのオンライン研修実施に向けた検討.....	46
1-3 市町が継続的にペアレント・トレーニングを実施するために	46

第 1 章 事業概要

1-1 本事業の経緯

発達障害児への支援のための体制整備において、滋賀県では2019年度より発達障害のある子どもの養育経験がある親をペアレントメンターとして養成し活用する取り組みを行ってきた。

2021年度には、親が子どもに対する、より良いかかわり方を身につけ、そのかかわりによって子どもの発達を促進するペアレント・トレーニングの普及に向けて「ペアレント・トレーニング市町担当者研修」を実施した。2022年度より本年までの3カ年は国のモデル事業を受託することとなり、地域において発達障害児の子育てに悩む保護者が、身近な地域で子育ての仕方やかかわりの工夫について学ぶことが出来るペアレント・トレーニングの実施方法、またこれを実施できる人材育成の方法を開発することを目的として「ペアレントトレーニング・ファシリテーター養成事業」を実施することとなった。

モデル事業1年目となる2023年度には、県内の状況を把握するため全19市町への訪問・電話での聞き取りを実施した。それぞれの市町で実施されている家族支援事業、その中でもペアレント・トレーニングを実施されているかどうか、実施されている場合はその対象、人員体制、内容、および実施方法を調査した。また全市町に呼びかけペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修およびフォローアップ研修を実施したところ10市町のうち6割超の自治体の参加があった。この取り組みによりペアレント・トレーニングの核となる基本プラットフォームに基づく実施について理解が進んだこと、研修の場が、各市町担当者がお互いの市町の状況を知り、情報交換しやすくなる雰囲気生まれ、市町担当者の横断的なネットワークの形成につながった。

また、調査の中で、明らかになったこととして大きく以下の2点があげられた。1点目としては各市町でペアレント・トレーニングを実施し、事業を持続していくためには市町の担当者が複数名の体制で事業を展開していくことが必須であること、2点目としては人口規模の小さい地域では人員体制を整えることの困難さがあるという点である。

このため、モデル事業2年目には各市町にペアレント・トレーニングを実施できる人材を育成することを実施した。人口規模の小さい市町（湖東圏域4町）においては県センターが主催してペアレント・トレーニングを試行的に実施した。

ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修には16市町のうち11市町と県立の小児科病院療育部から参加があった。この研修での学びをより深めるため、アンケートを実施し、それぞれの参加者のニーズに合わせた「ニーズ別研修」を実施した。このことによりそれぞれの市町の担当者が、より良い実施方法について意見交換や確認を行い不安や悩みを解決できる場として期待できることが分かった。

湖東圏域4町での試行的実施については圏域の療育教室の協力のもと実施をすることが出来たが、継続的な実施につなげることは難しかった。

1-2 事業目的

モデル事業3年目については、次の目的を設定した。

- ① 各市町が継続的に事業に取り組めるようペアレントトレーニングを実施できる人材を育成すること。

引き続き人材育成のためのペアレントトレーニング養成研修を実施し、担当者のエンパワメントの機会としても効果が確認できるニーズ別研修をフォローアップ研修として実施する。

- ② 支援者向け研修動画の作成

市町や療育教室、児童発達支援等、ペアレントトレーニングについて学ぶことが望まれる支援者が、業務多忙で研修に参加する機会を持ちづらいことから、支援者向けに比較的短時間でペアレントトレーニングについて理解ができるようなコンテンツ（配信動画）を作成する。

- ③ オンラインによるペアレントトレーニングの実施

人口規模の小さい市町への取り組みとして、市町担当者へのアンケートで関心を持たれた町とともに対象や実施方法について検討し、県センター主催で実施する。

- ④ 実施市町へのアドバイザー派遣

実施市町及び導入検討中の市町からのニーズに応じて前年度に引き続きアドバイザー派遣を実施する。

第 2 章 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修

1-1 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修の実施

1-1-1 研修内容

目的:市町においてペアレント・トレーニングを実施・推進することができる人材を養成する。

日時:1日目 2024年7月4日(木) 10:00~16:00

2日目 2024年7月5日(金) 10:00~16:00

場所:草津市市民交流プラザ(フェリエ南草津5階) (南草津駅から徒歩1分)

〒525-0059 滋賀県草津市野路 1-15-5

講師:東京都手をつなぐ育成会 加藤 永歳氏(1日目 ZOOM、2日目会場)

ファシリテーター:小池由香里氏[公認心理師・臨床心理士]

望月基子氏[公認心理師・臨床心理士]

対象者:各市町の障害福祉課、発達障害者支援室・センター職員・児童発達支援センター、療育担当者、その他県や市町で発達障害児支援に関わる者、各市町 1 名~2 名。

日程:

1 日目 2024年7月4日(木)10:00~16:00

時 間	分	内 容
9:30 ~ 10:00	30	受付【フェリエ南草津 5 階大会議室】
10:00 ~ 10:10	10	・開会 ・県障害福祉課・滋賀県発達障害者支援センター所長あいさつ ・オリエンテーション(事務連絡等)
10:10 ~ 11:10	60	・各市町から報告 (参加の動機・昨年度からの経過や課題、療育教室との連携状況についてなど) ・療育教室から報告(参加の動機、市町の報告を受けてコメント等)
11:10 ~ 12:30	80	・加藤氏講義「ペアレント・トレーニングの概要/市町で実施するペアレント・トレーニングについて」 ・加藤氏からコメント
12:30 ~ 13:30	60	昼休憩 *レイアウトチェンジ
13:30 ~ 13:55	25	・ロールプレイ説明(5 分)

		【講義】「良いところ探し」…大会議室(20分)
13:55 ~ 15:00	65	・自己紹介 ・ロールプレイ(25分)振り返り(10分)×2 ＊地域別・取り組み段階を考慮して2グループに分ける - Aグループ:ファシリ:小池氏(彦根、八幡、草津、栗東、湖南) - Bグループ:ファシリ:望月氏(甲賀、野洲、高島、東近江、米原、日野) ＊グループは大会議室前方と後方に分かれる
15:00 ~ 15:10	10	休憩・移動
15:10 ~ 15:45	35	各グループの報告(センター、小池氏、望月氏から)
15:45 ~ 15:50	5	センターより今年度の取り組みについて
15:50 ~ 16:00	10	・事務連絡 ・アンケート記入

2日目 2024年7月5日(金)10:00~16:00

時 間	分	内 容
9:45 ~ 10:00	15	受付【フェリエ南草津 5階大会議室】
10:00 ~ 10:05	5	・開会 ・事務連絡
10:05 ~ 10:25	20	【講義】 「環境調整」…大会議室
10:25 ~ 12:00	95	【演習】 ・ロールプレイ(25分)、振り返り(15分)×2、途中休憩…グループごと - Aグループ:ファシリ:小池氏(参加者)、サブ:センター職員 - Bグループ:ファシリ:望月氏(参加者)、サブ:センター職員 ＊グループは大会議室前方と後方に分かれる
12:00 ~ 13:00	60	昼休憩
13:00 ~ 13:10	10	◎当日変更 デモンストレーション ファシリ役:小池氏 親役:望月氏・市町参加者3名程度 コメント:加藤氏
13:10 ~ 13:20	10	【講義】

		「効果的な指示の出し方」…大会議室
13:20 ~ 14:40	80	【演習】 ロールプレイ(25分)、振り返り(15分)×2…グループごと Aグループ:ファシリ:小池氏(参加者)、サブ:センター職員 Bグループ:ファシリ:望月氏(参加者)、サブ:センター職員 *グループは大会議室前方と後方に分かれる
14:40 ~ 14:50	10	休憩
14:50 ~ 15:50	60	・全体での振り返りと質疑応答 (参加者、センターからコメント) ・ファシリ小池氏、望月氏より ・加藤氏よりまとめ
15:50 ~ 16:00	10	・閉会、事務連絡 ・アンケート記入

1-1-2 研修参加者

各回の参加者数及び参加市町数は以下の通りである。

第1回7月4日に11市町12名参加。

第2回7月5日に11市町11名参加。

全日程参加者は11市町10人。

参加者に関する基本情報は問1～問6(*全日程参加者の状況)の通りである。

問1 職種

心理判定員	1
公認心理師	1
臨床心理士	1
発達相談員	1
心理士	2
主査	2
保育教諭主査	1
保育士	1

問2 経験年数

1年未満	0
2年～5年	5
6年～9年	0
10年以上	5

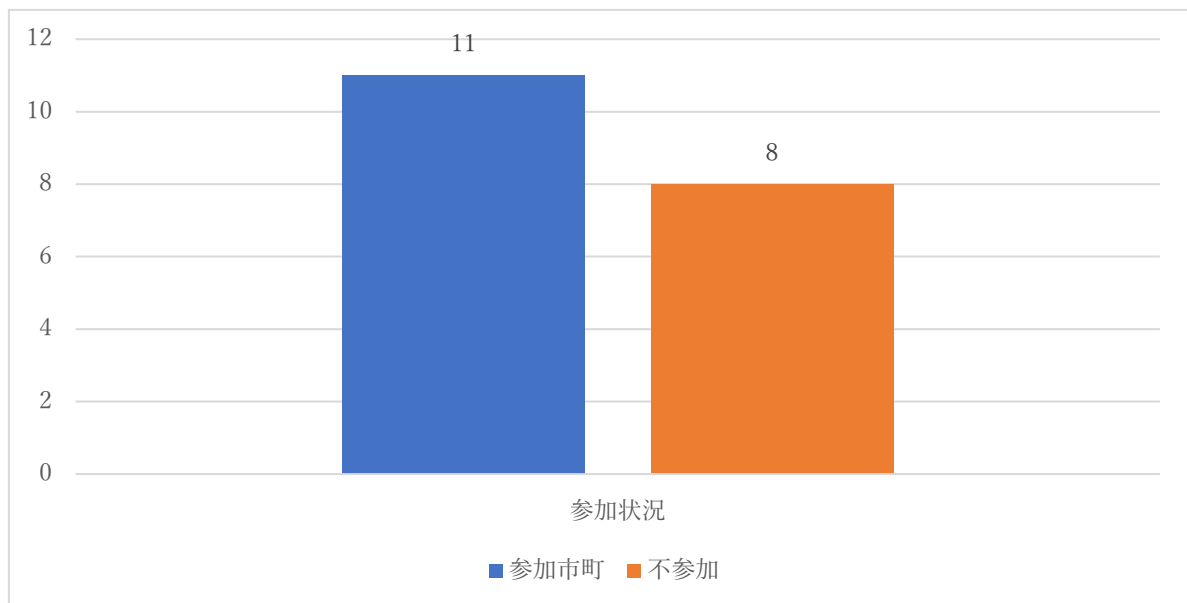
問3 PT 養成研修受講経験

有	1
部分受講	0
無	9

問4 PT 実施経験

有	0
同席または見学	5
無	4
その他	1

問5【市町参加状況】



問6 【参加理由】

- ・療育に携わるなかで、保護者支援や保護者同士の繋がり的重要性の高さを感じるため。
- ・発達相談や療育など、日頃の業務の中で、子どもの発達や関わり方で悩まれている保護者がとても多いと感じています。また、悩みを抱える保護者同士で話し合える機会も必要と感じるため、ペアトレについて基礎から学び、保護者支援に活かしたいと感じ、受講を希望しました。
- ・保護者の方が自信をもって安心して子どもと関わるためにペアトレが一つの支えになると思う。
- ・ペアトレを学んで、保護者の方が安心して子育てできるよう、私自身も相談の中でペアトレの考え方を活用したい。
- ・ファシリテーターの役割を学び、ペアレント・トレーニングの実施に活かしたいため。
- ・「市ペアレントメンター家族支援事業」を実施するにあたり、ペアレント・トレーニングの実施・推進を行うために必要な知識やスキルを習得したいと考えているため。
- ・ペアレント・トレーニングについて、その理論背景や運営の仕方を含め基礎から学び、より効果的な保護者支援を実施したいため。
- ・市内ことばの教室や療育教室の保護者の中からペアレントメンターを推薦してきたが、メンターの活用とペアレント・トレーニングの本格的実施に向けて、ファシリテーターとしての専門的知識を得たいと考えたため。
- ・子どもとの関りで悩まれている保護者が多く、支援になる方法を学べたらいいと考えるため。また、

当市はペアレント・トレーニングを行っておらず、その方法論等を学べたら良いと思っている。
・今年度から初めて発達支援センターへ異動となり、ペアレントトレーニングというものを知った。今回受講し、ペアレントトレーニングを学び、療育、保育現場で活かしていきたいと思っている。
・他市でされている事や、色々な工夫を知りたいと思います。

1-1-3 研修事後のアンケート調査

2 日間の研修修了時に、参加者にアンケートの記入を依頼した。項目は以下の内容である。

アンケート項目

1. (1 日目) 講義について
2. (1 日目) 演習(ロールプレイ)について
3. (1 日目) 会場や運営、その他お気づきのことがあればご記入ください。
4. (2 日目) 研修の内容について、2 日間の研修を通して最も当てはまるものを選択してください(4 尺評価)
 - ・研修の内容はわかりやすかった
 - ・研修の時間(長さや開催時間)は適切だった
 - ・ペアレント・トレーニングの概要を学ぶことができた
 - ・ファシリテーターの役割や、実際の進め方を学ぶことができた
 - ・実際にペアレント・トレーニングを開催する場面をイメージすることができた
 - ・今後の業務に活用することができる
 - ・今後、ご所属の市町や事業所でペアレント・トレーニングを事業として展開、推進していきたい。
5. (2 日目) 実際にロールプレイを体験(もしくは見学)することで、どのような気づきがありましたか
6. (2 日目) 今後、事業として展開するにあたり県や発達障害者支援センターからどのようなフォロー、バックアップ体制があると良いですか(事業として展開するご予定のない市町からも、是非ご意見をお聞かせください)
7. (2 日目) その他、ご意見ご感想ありましたらご記入ください

1-1-4 研修事後のアンケート結果

受講生の研修事後アンケート結果については表 7～表 19 のとおりである。

問7【1 日目】講義について(自由記述)

1. ペアレント・トレーニングとはという基本的なことから学べてよかった。保育・療育の中で家族支援の大切さを痛感しているが、自分の支援方法に迷いもあった。ペアレント・トレーニングとして

プログラムがあることで、よりわかりやすく伝えやすくなると感じる。子どもの行動変容を目的としてほめ方や指示などのスキルを学び、今後の療育・保育・また自分の子育てでも活かしていきたい。

2. ペアレント・トレーニングをやっていく中で、コアエレメントをおさえた支援になっているかが重要と学んだ。また、実践していくうえで対象者の選定も重要になっていくと感じた。
3. 法律を合わせて今まで考えたことが無かったのでとても良い機会になりました。また、ペアレント・トレーニングの全体的な雰囲気や考え方を学ぶことが出来、とても参考になりました。
4. ペアトレのパッケージ化までの経緯など知ることができ、学びになりました。また、ペアトレの視点には、個別相談で必要なエッセンスが盛り込まれていると知ることができ、よかったです。「ペアトレを実施する」と思うとハードルが高く感じていたのですが、子どもをとらえる視点、関わり方を保護者に知っていただくために、今後ペアトレを実施していこうと思いました。
5. ペアトレについて、だいたいの概要しか知らず、わかっていない部分が多かったが、法律に基づくという基本的部分から、家族支援の重要性、ペアトレのコアとなる部分など学びが多かった。ペアトレの中には応用行動分析など理論的な要素も含まれるため、理論の学習も必要だと感じた。
6. 個別でペアトレ要素を入れて相談を実施しているのですが、講義を受けて、これも大丈夫だったんだと思うことができ、安心できました。「まずは何かできる事を勢いでやる事」の言葉をお土産に、他の支援者にも配りたいと思います。
7. ペアトレの重要な要素について非常にわかりやすくご講義いただきました。岐阜の取り組みについて、同じようにはいなくても、参考になる部分がありました。ペアトレの効果やその重要性について改めて実感しました。
8. ペアレント・トレーニングのコアエレメントについて知れてよかった。普段の相談の中では、子どもに対する支援について話すことが多いので、保護者の方への支援の重要性を改めて感じた。
9. 家族支援の必要性や大切さ、ペアレント・トレーニングの基礎的なことについて、分かりやすく教えていただき、ありがとうございました。ペアレントトレーニングの核となるコアエレメントについては、日々の業務で保護者と個別で相談対応するうえでも大切になってくることだと感じました。子どもの良いところ探しやほめるということは、なかなか保護者の方が気づきにくく、また「ほめてあげられてない」と感じることもあると思うため、一緒に考えてみたり、気づきを促したりしていけるとよいのかなと感じました。
10. 幼児さんを担当させていただくことが多いのですが、本人さんに直接アプローチするより保護者さんと話をする方により重きを置くケースがちらほらあったりします。保護者支援、家族支援の重要性を痛感することが多かったので、改めてこのようなお話がきけて良かったです。
11. ペアレント・トレーニングの制度的なところから基本を知ることができた。今までも個別での家族支援には取り組んできたが、ロールプレイを通して集団での保護者同士のつながりから学べることも重要であると感じた。

12. ペアレント・トレーニングについて改めて目的や内容を知る機会だった。行動分析を用いたペアレント・トレーニングは、行動に注目するため、保護者がどこまで行動に注目できるかというところの手助けが難しそうに感じた。アンケートについては、実際のペアレント・トレーニングの成果として、効果があったかということはグラフに表すと、効果があることを知り、実施する意味を持つことができたと思う。

問8 【1日目】演習（ロールプレイ）について（自由記述）

1. 実際にファシリテーターをしていただき、話の中から保護者の方のことを認める声かけ、話の広げ方やつなげ方などを学ぶことができました。実際にペアトレをされている様子を見ることができたらと思います。演習までの講義の部分もまたじっくり学べたらと思いました。
2. いろいろなワークを通して、褒められるポイントを探したが、自分の書いたものが当たり前でできているところではなくて、少し頑張ったポイントを書いていることに気づいた。当たり前を褒めるということの難しさを体験できた。家庭や現実の場面で取り入れてもらうためには工夫を考える必要もあると感じた。
3. 実際にロールプレイを行ったことで、どのような所が取り組みにくいかなど、体験することができた。普段はすすめていく側になるため、あまり体験しにくい部分である為、やってみることが出来てよかったと思う。
4. 保護者の立場に立つことで、グループを味わう緊張感や、自分の発言が拍手という形でポジティブにフィードバックされることの安心感などを味わうことが出来ました。また、講師の先生のファシリテーターとしての振るまいを通して、グループのまとまり感や受容的な雰囲気を生み出すあり方を学ぶことができ、良かったです。
5. ペアトレの実際について、全く知らない状態であったが、ロールプレイですこしイメージがつかめた。ファシリテーターをするためには、講義の内容を知って理解しておく必要があること、グループの保護者の価値観や視点の違いをまとめることが難しそうな点だと感じた。ファシリテーターをするためには自分も相手のいいところ探しを得意にしないといけないなと感じた。
6. 参加される方の緊張感や、良いところさがしの難しさを改めて実感できました。ペアトレのワークを使っていくと保護者の方から「ほめるってこのあたりでいいんだ」と気づかれる方が多いので重宝させていただいています。
7. ペアトレは実施していませんが、療育参加児の保護者グループを担当しているため、参加者としての体験ができたことが良かったです。普段の自分自身の役割や言葉がけなど振り返るきっかけとなりました。
8. 実際体験することで、どんなところで保護者の方が困るのかな、どうすれば安心して話してもらえるのか、考えることが出来た。また、ファシリテーターの先生の進め方を見せてもらうことで、こういう時はこう伝えたらいいのかなと勉強になることばかりだった。
9. 保護者側の気持ち（緊張・お互いに話し合っただけ共感できたこと・感想を言い合っているときのあたたかい雰囲気など）を感じる事が出来ました。また、ファシリテーターの声かけや場の進

め方を実際に体験して、様々な工夫をされていることを実感できました。保護者側が安心したり、少しほぐれることばがけもペアトレに大切なことだと感じました。

10. 自分がファシリテーターとして参加するなら・・・と想像しながら取り組みました。普段自分の話をする機会もほめてもらう機会もないので、ロールプレイでもなんだか嬉しくなりました。実際にやってみたとき参加される保護者さんにもこんな気持ちになってもらえたらなーと思いました。ファシリテーターの観察眼が試される!?と思いました。
11. 頭の中で考えるだけでなく、一度声に出して体験することで実際の場面が考えやすくなる。体験することの重要性、してもらう事の重要性に気づいた。
12. 親側として参加することは新鮮な気持ちになったり、いきなり当てられることへの不安や、同じような人がいる安心感、意見をまとめてくれるファシリテーターの存在をロールプレイをすることで感じた。様々な意見が出る中でうまくまとめたり、場をまわしていけるのかという心配が大きくなった。

問9【1日目】会場や運営、その他お気づきのことがあればご記入ください。

〈その他〉

1. 日程の都合で本日のみの参加となりすこし残念です。
2. 駅から近くありがたかったです。

【2日目】研修の内容について、2日間の研修を通して最も当てはまるものを選択してください。

問10 研修の内容は分かりやすかった

	N	%
そう思う	10	91
ややそう思う	1	9
どちらともいえない	0	0
あまりそう思わない	0	0
思わない	0	0
合計	11	100

問11 研修の時間(長さや開催時間)は適切だった

	N	%
そう思う	7	64
ややそう思う	3	27
どちらともいえない	1	9
あまりそう思わない	0	0
思わない	0	0
合計	11	100

問12 ペアレント・トレーニングの概要を学ぶことができた

	N	%
そう思う	9	81
ややそう思う	2	19
どちらともいえない	0	0
あまりそう思わない	0	0
思わない	0	0
合計	11	100

問13 ファシリテーターの役割や、実際の進め方を学ぶことができた

	N	%
そう思う	9	81
ややそう思う	2	19
どちらともいえない	0	0
あまりそう思わない	0	0
思わない	0	0
合計	11	100

問14 実際にペアレント・トレーニングを開催する場面をイメージすることができた

	N	%
そう思う	6	55
ややそう思う	4	36
どちらともいえない	1	9
あまりそう思わない	0	0
思わない	0	0
合計	11	100

問15 今後の業務に活用することができる

	N	%
そう思う	8	73
ややそう思う	3	27
どちらともいえない	0	0
あまりそう思わない	0	0

思わない	0	0
合計	11	100

問16 今後、ご所属の市町や事業所でペアレント・トレーニングを事業として展開、推進していきたい。

	N	%
そう思う	6	55
ややそう思う	3	27
どちらともいえない	2	18
あまりそう思わない	0	0
思わない	0	0
合計	11	100

問17 【2日目】実際にロールプレイを体験(もしくは見学)することで、どのような気づきがありましたか(自由記述)

1. ペアレント・トレーニングについて知りたいと思って来ましたが、ロールプレイを体験することになり慌てました。実際にやってみるには、ここはおさえたいという狙いをしっかりもち、保護者さんに“ここは伝えたい”と思うことを伝える事が出来るようになることが大切だと感じました。話したい、話そうと思える場づくりも大切だと思いました。
2. いざ実際にロールプレイをすると緊張して頭が回らなかったり、何て返したらいいのかわからなくなることがあって、実践を繰り返すことが大事だと思った。
3. ファシリテーターをする人によって色があり、押えないといけないポイントは押えつつも、保護者の多様性に合わせて色々な組み合わせ対応していくことができることが分かった。ファシリテーター役だけでなく、普段分からない保護者側の思いも分かり良かった。
4. 保護者側のことをすることで、ワークの難しい部分がわかった。またファシリテーターとしてロールプレイをしたが、プログラムによって頭に入れておくことの重要性を感じた。それが出来ない柔軟にやっていけないと思いました。
5. 褒めることを中心にワークがあり実際にほめられる事の心地よさを改めて感じる事ができました。回を重ねるごとにお題の難易度も上がり、きっと保護者の方もやりにくくなってくるのでは？との視点も持てました。ちょっとほっこりするようなユーモアもありつつ、また参加したいと思えるロールプレイだったと思いますので、そのような会が開けるように努めていきたいと思いました。
6. ペアレント・トレーニングは実施していないのですが、普段の発達相談や保護者グループに活かせる要素がたくさんあることや保護者にとって必要な機会の1つであることを実感しました。

個別に関わることも多いですが、グループならではのメリットにも改めて気づくことができました。

7. デモンストレーションではいわゆる“難しい保護者の方”を含むグループのファシリテートの仕方について解説を交えつつお話を伺うことができ、とても学びになりました。グループの良さを活かすファシリテートの仕方、回の進め方を具体的にイメージすることができました。参加者（保護者）としての体験を通して受容的な雰囲気の効果を改めて学ぶことができました。
8. デモンストレーションを見学する中では、親に合わせて配慮を考えて事前に作戦を練ったり参加してよかったと思える細やかな配慮があることが分かった。集団の流れをつかむことの難しさを知った。また男性としてファシリテーターをすることで母親への対応などは改めて配慮が必要だと感じられた。
9. 保護者側の気持ちについて考えることができた。どのような声かけやタイミングが“共感された”と感じやすいのか、実際にロールプレイしたことで体験できたと思う。
10. 親の立場になってみて親を褒めることの大切さ、色んな関わり方を周囲の保護者から聞けることの学びを感じました。また、ファシリテーター役を見たり、実際にやってみたりする中で親はどんな方かアセスメントしていくことの大切さ、事前準備の必要性を感じましたが、それは個別に保護者と会い、相談対応する上でも大事なことであり、日頃の保護者や家族支援に繋がっていきたいと思いました。
11. ファシリテーターが全体に考えることがたくさんで技術のいることだな～と思いました。臨機応変、柔軟さが試されると思いました。

問 18【2 日目】今後、事業として展開するにあたり県や発達障害者支援センターからどのようなフォロー、バックアップ体制があると良いですか（事業として展開するご予定のない市町からも、是非ご意見をお聞かせください）

1. 実際にやっている中で悩みやこれでいいのかという疑問も出てくると思うのでフォローやバックアップがあると心強いと思いました。
2. ペアトレをやっていく中で悩んだら相談できる体制など。
3. 全体を通してのロールプレイの機会
4. 見学の機会
5. ペアレント・トレーニングのメリットの大きさを伝えていきたいのですが、人手や予算、会場どうする？となってしまいます。なかなか手が付けられず個別に数名要望があればペアトレ風を実施していますが、他課ともコラボして実施できないかなとも個人的に思いました。そこで大変聞きにくいのですが、こんな風にやると実践できるかもねというような話ができれば教えていただきたいです。
6. 応用行動分析について学ぶ研修

7. キャットキットの研修(職としてアップデートできる研修を願っています。お世話になりありがとうございました。)今回のように各市町の動向やどんな実践をされているのか共有したり、聞けたりする機会があると良いなと思います。実際に事業として実施するなら、実践されているところに見学に行けたら良いなと思います。
8. 他市町でのペアトレの実施状況・課題等について情報共有できる機会があればと思います。(ペアトレの見学、意見交換など)
9. 今回のデモンストレーションのような内容(ロールプレイを通じて途中止めながら流れの解説など)を定期的に見て学びたい
10. ペアレント・トレーニングのプログラムの基礎的な理論ややり方について学べる機会があると助かります。どのような考え方、理論を知っておけばよいのか、知りきれている訳ではないので、教えていただけると嬉しいです。
11. 各市町での実践の交流、意見交換の場があると良いと思います。1 月にはそういうことができるのかなと楽しみにしています。ありがとうございました。

問19【2 日目】その他、ご意見ご感想ありましたらご記入ください。

1. 実際のロールプレイの中で加藤先生の一言で場の空気感が変わり、また話そうと思えるようなテクニックもあり大変勉強になりました。子どもも保護者も支援者同士であっても“ほめられる”という事の大切さを改めて感じました。園や学校で相談や療育にもかかってないけど困っている方がたくさんおられます。そんな家族へもエッセンスが伝えられたらと思いました。2 日間ありがとうございました。
2. ありがとうございました。とても勉強になりました。
3. 講義よりも体験が多く、頭でっかちにならない良い研修でした。
4. 2 日間にわたり学びの機会を設けていただきありがとうございました。得られた学びを持ち帰り、ペアトレを地域で根付かせていけるようにしたいと思います。
5. 栗東市ではペアレント・トレーニングをしていて、同席していたファシリテーターを見ることが多いですが、実際に自分がファシリテーターになると沢山考えることがあり、ファシリテーターの難しさを感じた。今回の研修の中でペアレント・トレーニングの内容を何か 1 つ持って帰ってもらうこと、褒めること、保護者への配慮を自分がファシリテーターをするにあたってのポイントにしたい。
6. ロールプレイをする機会はあまりなく、(特に現職についてから)とても勉強になりました。自分の保護者や子どもに関わる姿を振り返る機会にもなったと思います。ペアレント・トレーニング以外の利用者への関わりにも活かしていけると思いますので、参考にしていきたいと思います。応用行動分析の基礎講座があれば是非参加したいです。
7. 2 日間ありがとうございました。ロールプレイを通して、ペアレント・トレーニングのことをより深く体験し、その雰囲気を感じることができました。難しさも感じましたが、保護者の立場になって

みて楽しさも感じられました。保護者を褒めることを通して家族支援につなげていけたらと思います。

第3章 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修フォローアップ研修

1-1 ニーズ別研修の実施

それぞれの市町の取り組みの段階や状況、またそれぞれのニーズに合わせた研修を行い、ファシリテーター養成研修での学びを深めることを目的とした。

1-1-1 事前アンケートの実施

昨年度までにペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修を受講された方、今年度ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修を受講された方で主に市町でペアレント・トレーニングを実施されている方を対象に、フォローアップ研修を実施した。ニーズ別研修を実施するにあたり、事前アンケートを実施した。事前アンケートは事前に参加者へメールし、Google フォームにて回答いただいた。アンケート項目は以下のとおりである。

○アンケート項目

1. お名前とご所属をご記入ください
2. ペアレント・トレーニングを実施中の市町の皆さんにお聞きます。今年度の予定を教えてください。
3. 今年度7月に養成研修を受講された方にお聞きます。研修受講後、学んだことを業務に行かせた場面について教えてください。(研修でも簡単に報告していただく予定です)
4. 本研修で知りたいことや学びたいことを選択してください。(優先度順に①～③の3つ)
(項目)
 - ・ペアトレのセッションの内容について
 - ・ペアトレのロールプレイについて(実際に体験)
 - ・ペアトレのテキスト・プログラムのアレンジの仕方について
 - ・ペアトレの運営・事業の位置づけについて
 - ・保護者対応について
 - ・その他
 - ・特になし
5. その他、他に知りたいことなど何かあればご記入ください

1-1-2 事前アンケート結果

参加者の事前アンケートの結果については表1～表4のとおりである。

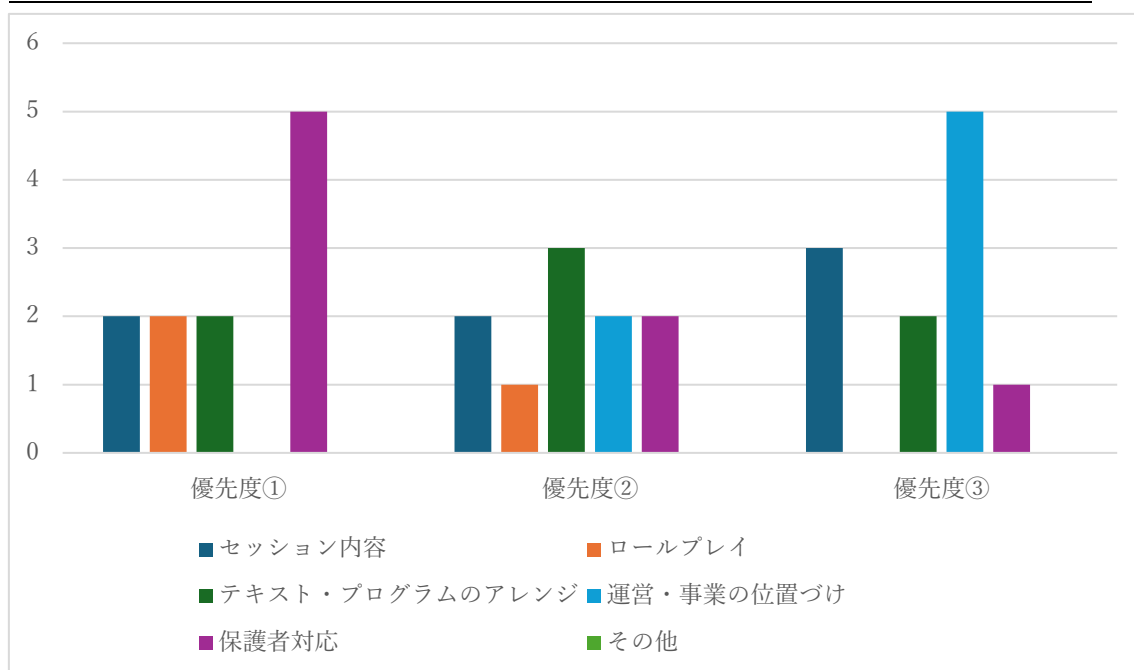
問1 1. ペアレント・トレーニングを実施中の市町の皆さんにお聞きします。今年度の予定を教えてください。

1. 前期後期の2回(1回につき6講座)実施予定
2. 10月~12月の全4回で開催予定
3. 月に1回45分~1時間程度、全11回実施予定。
4. 全11回(前期5回、後期5回、フォロー1回)
5. 前期5回、後期5回
6. 11月、12月に弊所にて県主催のオンラインペアレント・トレーニングを実施予定
7. 実施中
8. 今年度は実施なし(職員配置の都合上で)
9. 11月~1月(3回連続講座)実施予定

問2 2. 今年度7月に養成研修を受講された方にお聞きします。研修受講後、学んだことを業務に活かした場面について教えてください。(研修でも簡単に報告していただく予定です)

1. 参加者の話を聞き、感想を伝えた。
2. 初めてのペアレントトレーニング(をもとにした子育て学習会)の開催にあたりファシリテーターとしての役割をイメージしやすかったです。
3. 療育の中で保護者の悩みに対して「事前予告」などペアトレで学んだことを生かして伝えることができた。「ほめる」も以前と意識が変わった。
4. まだ、ペアレントトレーニングを実施していないので何とも言えないですが、行動レベルで話を聞くことは大事なところと感じたケースがありました。
5. ペアトレは実施していないが、療育の保護者会、保護者への個別相談の場で参考になることがあった。
6. 今はまだ実施されていないが、今後、座談会形式の会を開く予定もあるので、そこで生かしていきたい。
7. 療育教室の保護者グループにおいて、養成研修で学んだファシリテートの仕方をいかすことができました。これまでよりも、保護者同士の会話が活発になり、グループの凝集性やサポート的な雰囲気が高まった印象です。

問3 3. 本研修で知りたいことや学びたいことを選択してください。(優先度順に①～③の3つ)



問4 4. その他、他に知りたいことなど何かあればご記入ください

1. 参加者の募集の仕方、範囲について
2. 今後すぐにペアトレを実施するわけではないので、何かに特化して学びたいというよりも、まだまだ全体のことや、初めて実施される(された)市町のお話等をもっと聞かせていただけたらと思っています。

1-1-3 ニーズ別研修事前案内の送付

上述したニーズ別研修事前アンケートの内容を踏まえ、当日の講師である小池由香里氏(公認心理師・臨床心理士)と望月基子氏(公認心理師・臨床心理士)との打ち合わせを実施した結果、下記スケジュールで研修を実施することとした。市町家族支援担当者へは事前に下記スケジュールのメールを送付した。

令和 6 年度滋賀県家族支援普及事業

「ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修フォローアップ研修（ニーズ別研
修）」研修日程

日時:2024 年 11 月 15 日 (金) 10:00~16:00

会場:滋賀県発達障害者支援センター 南部センター 会議室

講師:小池 由香里氏(公認心理師・臨床心理士)、望月 基子氏(公認心理師・臨床心理士)

スケジュール:

時間	プログラム内容
9:45~10:00	受付
10:00~10:10	開会・オリエンテーション(資料確認・自己紹介)
10:10~10:50	○全体ワーク 「各市町の状況共有・養成研修終了後、PT に関連した取り組み についてそれぞれ報告」
10:50~11:00	休憩
11:00~12:20	○講義 「いろいろな PT とプログラム構成の仕方」 ○報告 ・H 市の取り組み(望月氏) ・H 町の取り組み①(奥村氏) ・H 町の取り組み②(小池氏) ○質疑応答
12:20~12:30	県センターから
12:30~13:30	昼休憩 ※アンケート記入(13:00 まで)
13:30~15:30	○全体ワーク 「保護者対応について」(適宜休憩) ※ロールプレイも含む ○OPT 実施状況把握シートの記入
15:30~15:55	まとめ

15:55～16:00	事務連絡（事後アンケートの記入）・閉会
-------------	---------------------

1-1-4 ニーズ別研修参加者

10市町12名参加。うち8名が2024年7月に養成研修を受けた方。その他4名がこれまでに養成研修を受けた方。

1-1-5 研修時の「全体ワークのためのアンケート」の実施

午後の研修開始前の昼食休憩中に、「全体ワークのためのアンケート」用紙を配布し、午後のワークを実施するために、ペアレント・トレーニング（以下PTと記載）実施中に対応が困ったことについて記入を依頼した。PTを実施していない方については、困りそうだと予測される場面の記入を依頼した。

1-1-6 研修時の「全体ワークのためのアンケート」結果

受講生には事後アンケートを実施した。結果は以下表5のとおりである。

問5 事前アンケート結果（自由記述）

1. 例えば、保護者自身の話をし始めてしまうなど、話がどんどんズレていってしまうと困ってしまうのではないかと感じています。
 - ・保護者の方同士で予想以上に話しが盛り上がってしまった時、時間内に終われそうにない場面での進め方をお聞きしたいです。
 - ・そもそも参加したくない…と話される保護者の方はおられるのでしょうか？（ペアレント・トレーニングの募集の仕方の工夫などあれば…）
 - ・O市では、まずは療育に来ておられる保護者の方を対象に、保護者同士でできる場を作っていくところから、PTらしいことが今後できたらと思っています。療育に来られている方を対象にするとすると、当市では1～2歳児のグループ、3歳児グループ、4～5歳児のグループが主となります。年齢によって、内容は多少変える必要も出てくると思いますが、同じくらいの年齢の方対象にした対象にした市町さんがどのような内容で実施しているか等お聞きしたいです。漠然とした不安ですいません。
2. 行動分析の世界観にはなじまない保護者
 - ・理解の難しい保護者。
3. 保護者の方のタイプによっては、グループワークが盛り上がる方となかなか発言が無い方があると思う。なかなか発言がなく、話題が広がっていかない場合の対応は困りそうだと予測する。
 - ・7月の研修のロールプレイで感じたが、人により、理解面や講義とワークの結びつきやすさ等があり、そのタイプのバラツキが大きい場合（ある程度、対象者を選定しておくこと起こりにくいとは思いますが、広く募集する場合は上記のことが多く得るように感じる）

- ・理解がずれていた時のフォローアップを、どのタイミングでどのようにしていくと 良いか。
- 4. 学習会のルールを毎回確認して進めていますが、一人の方の話が多くなったり、逆に積極的な発言があまり無い方など、全体の発言バランスは気になります。
 - ・定員 5~7 名のところ、それぞれの理由で 2~3 名になることもあり残念な時もあります（少人数が故の良さもありますのですが）
- 5. 現在ペアトレ研究会で作成されている資料を用いて実施しています。第 1 回~第 3 回の内容の中に、第 4~6 回で伝える内容の事前情報・内容も含まれていると感じています。例えば、「環境調整」の内容自体は、第 4 回で取りあげるけれども、第 2 回の資料でふれていたりします。そうすると、第 2 回の時に詳しい内容を保護者さんもあり、その時に時間もないために十分に伝えられず、お互いに消化不良が残る感覚になります。
 - ・現在、はじめに全体の流れを伝えて見通しを持たせたらどうかと考えているが、他の工夫等あれば教えて頂きたいです。
- 6. 「お家でやってみてどうでしたか」と順番に聞いている時に「全く変わりません」と言われた時、壁を感じてちょっと困りました。（2 回目にお休みされた方でした）
 - ・保護者さん自身の負担感軽減について気をつけました。
 - ・評価について成果となる項目を設けたいのですが、どんなのがいいでしょうか（アンケート作成を担当していないので作成担当者に伝えたいです）
 - ・皆さん費用面はどうされているのでしょうか？
- 7. 用事の為、途中から参加される際、ワークから参加する場面に大切な部分が伝えられないままワークをしたので、理解が深まりにくかったのではないかと感じた。
 - ・グループワークで保護者さん同士の会話が盛り上がっている時の話の切り方に困ったことがある。（一方のグループはワークを終えているが、一方のグループが子どもの様子などで理解が深まりそうな会話をしているとき）
 - ・アイスブレイクどんなのがあるか。6 回違うものを考えるとネタがつきてしまう。
 - ・市町のとりくみについて
- 8. 予定より参加人数が少なく、グループワークの時間に話しが盛り上がりにくい、話してくれる保護者に負担があるように感じる。→職員はなるべく、話題提供等に努めて進めてみるが、答えを職員に求めるような流れになることもあった。
 - ・グループワークの内容が本来の目当てと違うところで盛り上がることもある。話をしてもらう場としてはそれで OK と思って、場合によっては内容を変えることもある。そういう時の対応について教えて頂きたい。
- 9. 行動のタイプ分けや問題行動への対応の捉え方がうまくいってない保護者への伝え方や対応。
 - ・（対象者の選定でクリアすべきところかもしれませんが）発語がなかったり、限られているケースの保護者が参加されている時にうまく交流ができない時。→発語が無い、限られているケースへの対応を知りたいです。最終のアンケートに記載します。

10. 保護者からあまり意見が出てこない時。

- ・シーンとなった時どうするか？(オブザーバーにふる？)
- ・自己紹介の時のネタはどんなものをつかっているか？
- ・N 市などでは、療育対象の方から対象を選ばれていたが、具体的にどのような内容を取り入れているのか。

11. 実施担当者より:ADHD タイプの子について、子の様子を見てると悪い所ばかり目について(保護者が)イライラする。ほめるところが見つからない、と母が言う。ペアトレで行動に注目するようになり、余計に気になるようになったと話されている。実施の構造上、子の活動の様子を見る時間があることも関係しているかもしれないですが。

質問:実際に支援者向け(療育や園の保育士)に向けたペアトレの研修は実施されていますか?どういった内容(時間)でされていますか?

12. 話題が止まった時にどのようにするか。

- ・話題の理解が不十分であった時、どのように対処するか(一人だけ理解のポイントがずれている、など)
- ・話題が脱線した時の対処の仕方。

1-1-7 事後アンケートの実施

研修終了時に、参加者にアンケートの記入を依頼した。項目は以下のとおりである。

○アンケート項目

- 1 全体ワーク①「各市町の情報提供について」
- 2 講義について
- 3 全体ワーク②「保護者対応について」
- 4 その他(運営、今後の研修への希望について)

1-1-8 事後アンケート結果

受講生には事後アンケートを実施した。結果は以下表6～表9のとおりである。

1 全体ワーク①「各市町の情報提供について」

・“できることをやっていく”をそれぞれの市町さんでされているんだなと感じました。K 市は今後“ペアトレ”をどうしていくのか考え中の段階なので、他市町さんの実践を参考にさせて頂き、保護者さんや子どもたちにとってより良い選択ができればいいと思います

・H 町では人口規模もあり、なかなか町でペアトレに当てはまる対象を抽出することから難しいと感じていたが、市によって対象のニーズに合わせながら内容や回数、実施方法等の工夫の仕方が色々あるのだと感じ、とても勉強になり、参考にさせて頂きたいと思います。

・他市町のペアトレの実施方法→オンライン・オンデマンドのペアトレーニングの実施の話が聞けて良かった。なかでも A 市さんのニーズに合わせたペアトレは実際に保護者さんからも「思春期用は

ないのか」というお声も聞いているので大事だと感じた。

・それぞれの市町で対象者や回数等は様々であると改めて感じました。各市町ができる方法で PT を実施されていることを聞き、O 市でも、今の職員体制でできる範囲のことからはじめていきたいと思いました。定期的に、こういった形で各市町の取組みについて共有できると良いなと感じました。

・どのように各市町が実施できているかを知ることが出来、良かったです。出来る部分から取り組んでいきたいです。

・各市町の現状や工夫を知ることができた。保護者にどのように周知し、参加を募るかということは共通の課題だと感じた。

・各市町さんでやっておられる状況はとても勉強になります。昨年も参加させてもらいましたが、1 年でやり方を変更しておられたり、新たに取り組みをされている市町があったので、ぜひ毎年このような情報共有の場があるといいなと感じた。

・各市町の実践や課題が聞けて良かった。地域の規模やニーズも違う中で、工夫していることも参考にして B 市の中での実施についても工夫していけるといいなと思う。

・見切り発車でもやってみようとスタートされ、7 月からの短期間で実施された K 市さんが大変印象的でした。各市町の課題があったり、対象の保護者の募集の仕方などそれぞれにあるということが知ることができた。対象としている年齢も未就学児、学齢期、思春期とそれぞれにされている市があるということを知り、どうやって行われているか具体的に知りたいと思いました。

・それぞれの市町で工夫されてやられていて、とても参考になった。

・参加者が集まりにくい中で、単発から PT につなげていければいいなど、保護者の方が関心を持ちやす、参加しやすい方法を考え実践されていることなど、これからの取組みを考えるにあたり参考になりました。

・様々な方法でペアレント・トレーニングで実施されている市町の報告が聞けて、そのような方法もあるんだとわかりました。保護者同士の話せる場所・共感や悩みを共有できる場所としての力があることも気付きました。

2 講義について

・時間をあわせることが難しいので、オンラインというのは1つの方法として選択肢に入れられているといいなと思いました。保護者ニーズを明確にすることの大切さを改めて感じました。

・まずは基本の内容をすべて理解しておくことが大切ということで、ペアトレの実施をしたことがなく、研修も一部の取扱いであったため、振り返りや更なる勉強が必要だと感じました。どこにねらいを定めるのか、目標設定がいかに重要かを感じました。

・ニーズに合わせたペアトレのやり方や、保護者にて、コアエレメントを変えられるようなアレンジをする必要があると学んだ。

・PTの取り組み方にこんなアレンジの仕方が考えられるのだと、とても参考になりました。一方でPTの基本的なことを、職員がしっかり理解した上でアレンジしないとブレてしまうと感じたため、7 月の研修で学んだことをもう一度確認すること、職員間でも共有しておくことの必要性を感じました。

- ・オンラインでの PT という視点は考えたことがなかったので、とても新鮮でした。プログラム構成の仕方についても、私が思っていた以上の工夫が出来、応用が広がるのだと勉強になりました。
- ・参加される保護者のニーズの変化に添って、ペアトレの回数や方法の見直しもしていくことが必要だと考えている。情報提供をオンデマンドや Zoom でし、対面とのハイブリッドのやり方等も大いに参考になった。プログラムのアレンジはスタンダードを熟知しておくことという示唆も参考になった。
- ・現在ペアレント・トレーニング研究会の資料を参考にして、コアエレメントすべてのり入れなければならないと思っていたところがありましたが、今日のお話を聞いて参加者によってより内容を掘り下げたりして、内容のアレンジをもっとしておけたらいいなと思いました。ただお話の中にあったフルで実施する機会も作る方がいいともあったので、その両立の難しさも感じました。
- ・参加対象者の選出や地域事情（ニーズ）に合わせた目当て、実践の仕方を考えることが大事と思った。オンラインの活用は B 市でも考えていたので参考にします。プログラムのアレンジについてスタンダードを知ることが大事。評価までセットでということは、個人的に反省点もあるので考えていこうと思う。
- ・オンラインでの実施方法について、市内でも興味があるところでした。講義をオンラインで行い GW を対面で行うというやり方が、今の保護者のニーズに合っており、実施者の負担も少ないと感じた。より具体的に市町の状況がわかり、学ぶことができた。
- ・PT プログラムの要素の話を聞き、参考になった。B 市はまだはじまったばかりなので、状況に応じて色々工夫していきたい。
- ・実際に PT をするとすると、コアエレメントを6つ取りいれて…は保護者の参加への負担、理解、職員の体制等から難しいと考えています。その中で、アレンジについて教えて頂けたことは、とても参考になりました。
- ・オンラインや親子での活動を併せてペアレント・トレーニングをされていて、様々な形態があることがわかりました。対象者により、オーダーメイドで内容を変える必要があることを感じました。一方で、ペアレント・トレーニングの紹介をするときに、保護者とのニーズのすり合わせが大事と感じました。

3 全体ワーク②「保護者対応について」

- ・参加者の立場で参加すると、また発見があり良かったです。ファシリテーターとしての引き出しが増えた…かもしれないです。
- ・ペアトレの場だけでなく個別の相談の場面でも話が盛り上がってしまう、変化が見えないと投げやりな保護者に会うことは多い為、GW で様々な意見を聞くことができとても学びが多かったです。日常の実践に生かしていけたらと思います。
- ・親の様子を見て声掛けをするタイミングや伝え方を学べて良かった。
- ・保護者対応の困り感は、PT を実施されている市町の方から具体的な話を聞けて、イメージすることが出来た。また解決するためにどういう対応をされているのかや、それぞれのPTなどについての考え方も聞けて、とても参考になりました。
- ・具体的にロールプレイを行うと、保護者の思いも体験でき、良かったと思います。実施者になると、

保護者の思いより全体の流れを気にしがちになってしまう為、今後のためにも勉強になったと思います。

- ・ロールプレイを通してファシリテーターの役割の重要性を改めて学んだ。他の保護者の考えをタイミングよく取り入れるファシリテーターの柔軟性やスキルをペアトレを重ねる中で磨いていきたい。
- ・グループワークの中で様々な意見をもらえたのが有意義でした。参考にして実施できたらと思います。久しぶりに保護者側の立場になれたことも良かったです。
- ・皆さんの意見、勉強になりました。実践でいかしたい。
- ・グループワークでは実際にペアトレをやっている方々の工夫を聞かせてもらうことができた。色々な保護者が居る中で難しいと感じる方がおられる場合、資料をより具体的に作る、フォローを個別にする等の対応の方法を知ることができた。参加された方が、子育てが楽しくなるような、ほっこりするような場になるとより良いのだと感じた。
- ・本当に色々な市町の方の意見を聞けて参考になる。
- ・保護者同士の交流を生み出すためのファシリテーターの働きかけ、出来ていることに注目する声掛けがとても参考になりました。
- ・PTはプログラムがあるので、どうやってプログラムを進めようという頭になってしまうところがありましたが、ひとり一人の発言の意図などを受けとめる、考えることも大事だと思った。

4 その他(運営、今後の研修への希望について)

- ・グループワークはとても勉強になるし楽しいし、またできたらいいな~と思います。ありがとうございます
- ・ありがとうございました
- ・県センター作成中のPTについての動画は、職員間でPTを学んでいくためにぜひ活用させていただきたいです。よろしくお願いいたします。
- ・ペアトレ研修コンテンツが完成したら、ぜひ利用したいと思います。完成を楽しみにしています。
- ・せっかく浸透しつつあるペアトレが今後も進化していけるよう継続的な研修が必要かなと思います。
- ・今、N市は募集対象者や募集の方法に悩み、模索しているところです。長くやっている市町さんはどのように変化しているのか気になっているので、もし可能であればそのような内容も取り上げていただけたらと思います。
- ・また、色々な市町との交流会(このような研修)を実施してほしい。
- ・発語がない、あるいは限られているお子さんを育てる保護者を対象とする場合の対応について知りたい。(PTは方法の1つなので、別の方法でのアプローチがいいのか…要素としてお伝えしているのか…)
- ・ペアレント・トレーニングのスーパーバイズなど。

1-2 家族支援情報交換会の実施

前年度までは、同日に別日程でペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修フォローアップ研修とペアレントメンター懇談会を実施していた。今年度は、ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修フォローアップ研修とペアレントメンター懇談会を同日同日程で行った。目的としては、市町担当者が各市町で実施しているペアレント・トレーニングの状況について共有するとともに、ペアレントメンターにも各市町で実施しているペアレント・トレーニングの状況を知っていただきつつ、ペアレントメンターの活用について市町の家族支援担当者との情報共有することとした。

1-2-1 研修で使用する資料についての案内の送付

研修当日にペアレントメンター/ペアレント・トレーニングについて内容の共有をしやすいようにするため、事前にペアレントメンター/ペアレント・トレーニングの活動状況・実施状況シートをメールにて各市町家族支援担当者宛に送付した。内容は表9、表10のとおりである。各シートは当日のみの資料とした。

2024年度 _____ 市町のペアトレ実施状況

◆ 目的	分野	発達障がい児者支援・母子保健(子育て支援)・虐待予防・教育
	目標とする 保護者の姿	具体的に

◆ 概要	対象	<選定方法>
	実施形態	全 回 (1回 分) 実施頻度: 1グループ 名 年間 グループ実施 実施スタッフ人数 人
	運営	担当部署: 職種: <実施できる職員数> 名 <実施者の養成方法> <事業計画の有無>

おおまかな時間分

◆ 構成	講義	・オリエンテーション(県センター・ペアトレ研究会・オリジナル) ・資料 ・スライド (ペアトレ研究会・オリジナル)	%
	演習	・ワークシート等を使った課題 ・ロールプレイ ・ホームワーク	%
	その他	・アイスブレイク ・近況報告 ・テーマトーク ・集団療法(グループセラピー)	%

◆ 内 容	関わり方	ほめ方	指示の伝え方	CCQ	トークン
		いいところ探し	環境調整	親子タイム	スモールステップ
	行動の捉え方	行動の具体化	ABC に分ける	行動の機能	行動のタイプ分け
	行動問題対応	待って褒める	不適切行動への対応		叱り方・警告・タイムアウト
	情報	・発達について ・障がい特性について ・園・学校との連携 ・サポートブック			
	保護者自身	・ストレスマネジメント ・アンガーマネジメント その他(			

◆ 評価 方法	事前・事後の評価	標準化された尺度() ・独自の質問紙
	事後のみの評価	・アンケート ・面談
	子ども行動記録	・あり() ・なし
	関係機関との連携	・あり() ・なし

◆ 今後の 方針	うまくいっている点、現状の課題、今後の事業展開など
----------------	---------------------------

ペアレントメンター 活動状況調査表

＊県センターまでご提出お願いいたします。（締め切り：2025/1/17 金）

市町名（ ） 名前（ ）

- ① あなたの市・町にペアレントメンターはいますか （ はい ・ いいえ ）
 - ② ペアレントメンターについて事業化されていますか （ はい ・ いいえ ）
 - ③ ペアレントメンター養成後のフォローは行っていますか （ はい ・ いいえ ）
- （ア）③で「はい」と回答された方へ、具体的な方法について教えてください。

- ④ ペアレントメンターの活動内容についてお伺いします。（＊過去３年の実施についてお伺いします）
・該当箇所チェックをし、簡単に内容をご記入ください。（複数回答可）

☐ 個別の相談	回数
	R4 年度 回 R5 年度 回 R6 年度 回
	活動の形態（相談までの手続き・相談時のメンター数・職員同席の有無・内容など）
☐ 保護者茶話会・座談会	回数
	R4 年度 回 R5 年度 回 R6 年度 回
	活動の形態（相談までの手続き・相談時のメンター数・職員同席の有無・内容など）
☐ 啓発〔支援者向け研修会・自立支援協議会での啓発活動など〕	回数
	R4 年度 回 R5 年度 回 R6 年度 回
	活動の形態（相談までの手続き・相談時のメンター数・職員同席の有無・内容など）
☐ その他	

目的:市町担当者に各市町のペアレントメンターの活動状況やペアレント・トレーニング実施状況を共有することで情報交換を行い、様々なペアレント・トレーニングの形を知ってもらう機会にする。また市町にいるペアレントメンターと市町担当者の交流を推進することで今後のペアレントメンターの活動の幅を広げていく。

日時:2025 年1月 24 日(金) 13:30~16:45

場所:キラリエ草津 6 階大会議室 〒525-0032 滋賀県草津市大路二丁目 1 番 35 号

参加者:

家族支援普及事業アドバイザー:井深 允子氏

講師:東京都手をつなぐ育成会 加藤 永歳氏

専門家:小池由香里氏[公認心理師・臨床心理士]

望月基子氏[公認心理師・臨床心理士]

対象者:各市町の障害福祉課、発達障害者支援室・センター職員、ペアレントメンター

スケジュール:

時間	研修項目
13:15 ~ 13:30	受付
13:30 ~ 13:35	オリエンテーション ① 開会、滋賀県発達障害者支援センター所長あいさつ ② 資料の確認
13:35 ~ 14:40	市町からの報告(13 市町×5分) ・メンターの活動報告 ・ペアトレの実施状況報告
14:40 ~ 15:10	県センターからの報告 ・H 市 SV について ・H 町オンラインペアトレについて ・オンデマンド研修コンテンツについて
15:10 ~ 15:20	・井深先生より
15:20 ~ 15:30	休憩
15:30 ~ 16:00	市町で情報交換
16:00 ~ 16:10	全体共有(各グループから発表)
16:10 ~ 16:35	加藤氏より総評
16:35 ~ 16:45	次年度以降の家族支援の方向性について ・県障害福祉課から
16:45	事務連絡・閉会

【お願い】

○当日の欠席、遅刻等の連絡は、滋賀県発達障害者支援センター 南部センター（077-561-2522）までお願いします。

○悪天候などで開催が難しいと判断された場合、中止になりますのでご了承ください。その場合は前日までにメールにてお知らせいたします。

1-2-3 研修参加者

参加者数及び参加市町数について、家族支援担当者は11市町15名参加。ペアレントメンターは9市町22名参加。

1-2-4 研修時の様子

市町で情報交換をする時間では、ペアレントメンターと市町家族支援担当者で7グループ各5名程度でグループ編成を行った。各グループには滋賀県発達障害者支援センターのスタッフがファシリテーターとして入った。各グループからの意見は以下表11のとおりである。

各グループの意見

1. ペアレントメンターにとっては、ペアトレを初めて知った方が多かった。ペアレントメンターの幅を広げて活用していけるとよいと感じた。他地域の取り組みが聞けたのは良かったという話があった。
2. ペアレントトレーニングのフォローアップなどにペアレントメンターがかかわることについて、あるペアレントメンターは「目的が違うと思うので難しい」との意見があった。
3. PTを受講されたことのあるペアレントメンターがいて、当時宿題など大変だったが今振り返ると良かったという感想があった。電話もできないくらいしんどい人達に知ってもらうにはどうしたらよいかなどのお話で盛り上がっていた。
4. ある市ではペアレントメンターが先輩保護者として話をしているが、事前に市の担当との打ち合わせができていないという実態がある。あるペアレントメンターは発達相談の待機で不安な親の話を聞くなどのイメージをもっており、グループで話をする場でのメンター活動についてはどうなのか。
5. ペアレントメンターとして活動されている方で交通費などもらっている方がいて、県内で統一が必要ではないかという意見があった。
6. メンターと地域の担当者が顔を合わせ、知り合うことが必要と思うのでこのような機会があるとよい。
7. 以前と比べて情報が多くなったが、孤立している保護者はいる。いろいろな選択肢があって、保護者が自分に合う資源とつながれるとよい。

1-3 実施後の結果・考察

ニーズ別研修は2年目から開始し、3年目は2年目と比較して参加市町・参加者数ともに増加している。事前アンケートの結果より、関心の高い項目は「保護者対応」「セッション内容」「プログラムのアレンジ」となった。午後の全体ワークでは関心の高い「保護者対応」を取り上げ、実際に参加された保護者に対しての対応について参加者同士で話し合い、よりよい対応方法を検討し、RPを実施した。参加者からは「保護者同士での話が大事だということに気づいた」「一部の保護者が盛り上がっている時の他の保護者の気持ちを実感することができた」「HWの振り返りでできていないところではなく、できているところを認めてもらえたのがうれしかった」などの感想があった。対応の難しい保護者がいる状態でRPを実施するとより、実際のPTに近い状態になるため、実践的な内容の研修にすることができた。

家族支援情報交換会では、ペアレントメンター懇談会を同時に実施したことによって、ペアレントメンターが各市町で実施しているPTについて知っていただくきっかけを作るとともに、市町担当者との意見交換の場を作り、ペアレントメンターの活動についての話し合いの場を創出した。また、同じ様式でPTの実施状況をまとめ共有することによって、それぞれのPTの違いや工夫がわかりやすくなり、それぞれの市町が実施しやすいPTを検討しやすくなっていると考ええる。実施状況シートから各市町間でのPT見学が活発化し、市町担当者同士の横のつながりが強化できていくとよいのではないだろうか。

第4章 オンラインを使用したペアレント・トレーニングの実施

1-1 実施に至る経緯

2023 年度に実施した滋賀県ニーズ調査（2023 年報告書参照）では、参加しやすいペアレント・トレーニングの実施形態として対面のみへの回答は全回答の 61%であり、オンラインと対面の併用への回答が 37%、オンラインのみへの回答は 20%であった。保護者（ここでは、主な回答者の母親）の就労状況別に、実施形態の回答を見ると、フルタイム・パートなど就労している保護者のオンラインと対面の併用の回答が約半数あり、オンラインと対面でのペアレント・トレーニングが参加しやすい形態であることが推測された。またこのニーズ調査の結果については、2023 年度の PT フォローアップ研修で共有し、当時オンラインでのペアレント・トレーニングについては様々な意見があったが、H 町の担当者からは前向きに考えていきたいとのアンケートをいただいていた。

そこで、市町担当者へオンラインでの実施を提案し、ペアレント・トレーニングを実施していない H 町の療育教室でオンラインと対面を併用したペアレント・トレーニングをモデル的に実施した。

【プログラム内容の決定】

全 4 回のプログラムであり、うち 2 回はオンラインでの実施であったため、内容については短期間に保護者が子どもとの関りの中で自身や子どもの変化が実感できることを目的として、「ほめる」ことに特化することとした。「ほめる」はペアレント・トレーニング実践ガイドブック（2019）の中に示されている、プログラムの核となる要素である 6 つのコアエレメントの一つの「子どもの良いところ探し＆ほめる」に位置することからも、内容のテーマとして適切であると判断した。

全 4 回の資料はペアレント・トレーニング研究会の資料をもとに、褒め方の具体や、子どもが喜ぶほめ方を見つける方法を加えたものを作成し、使用した。

また、プログラムの評価として、参加者である保護者の変化と、子どもの変化を検討できる質問紙をペアトレ実施前後に記入を依頼した。また、実施後にプログラム内容や実施の妥当性を検討するために事後アンケートを実施した。

1-2 実施内容

・参加者：療育教室に通っている 4・5 歳児の保護者 5 名

今回は希望者を募ったため、4・5 歳児という年齢の共通性だけであり、子どもの特徴などは様々であった。

・実施期間：2024 年 11 月～12 月

・実施場所：（対面）地域療育教室の一室

・スタッフ：メインファシリテーター 1 名、サブファシリテーター（記録）1 名、サブスタッフとして参加（参加者が奇数であったため、グループワークの人数の調整およびグループワークのサポート）1 名

・プログラム内容

	形態	時間	テーマ	内容	HW
第1回	オンライン	30分間	ほめ上手	こどものことを知る	得意と苦手を見つけよう
第2回	対面	1時間	ほめ上手	ほめる効果/具体的なほめ方	ほめまろうシート①
第3回	オンライン	30分間	観察上手	行動の3分割	ほめまろうシート②
第4回	対面	1時間	観察上手	HWの振り返り/ほめるの RP	

・オンライン:Zoom を用いて実施した。事前に資料を配布し、それをもとに実施者がパワーポイントを示しながら講義を行った。参加者は原則画面に顔を出すように依頼し、一緒に受講している雰囲気を感じてもらえるようにした。オンラインでの講義中は参加者に質問等を呼びかけたが、第 1 回、第 3 回ともに質問はなく、参加者が画面上で発言することはなかった。オンラインに関しては、欠席者には欠席時の講義部分だけを録画した動画の視聴を依頼した。

・対面:最初の 10 分は宿題のふり返しを行った。ペアで宿題を見せ合い、シェアした後、全体で宿題の取り組みについて発表を行った。資料をもとに講義を実施し、その後質問の時間を設けた。講義の中でも、参加者が発言する機会を作り、安心して発言できる場づくりを行った。対面での 1 時間の中では、参加者が発言でき、自発的な質問も聞かれた。

1-3 実施結果

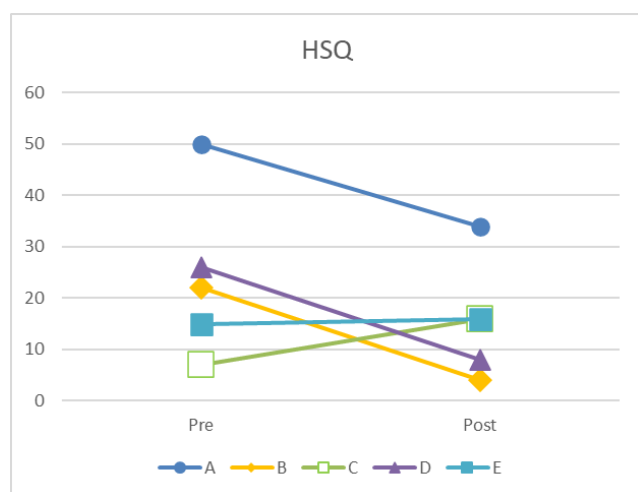
1-3-1 参加率

オンラインは 80%、対面は 90%であった。欠席理由は体調不良や仕事の調整が困難というものであった。

1-3-2 子どもの評価の変化(HSQ)

ペアレント・トレーニング実施前後に評価した子どもの家庭での関りの困難さについての評価を比較した。5 名中 3 名の困難さが低下し、1 名はほぼ変化がなく、1 名が上昇したという結果であった。結果については下記表 1 のとおりである。

表 1 HSQ 実施結果

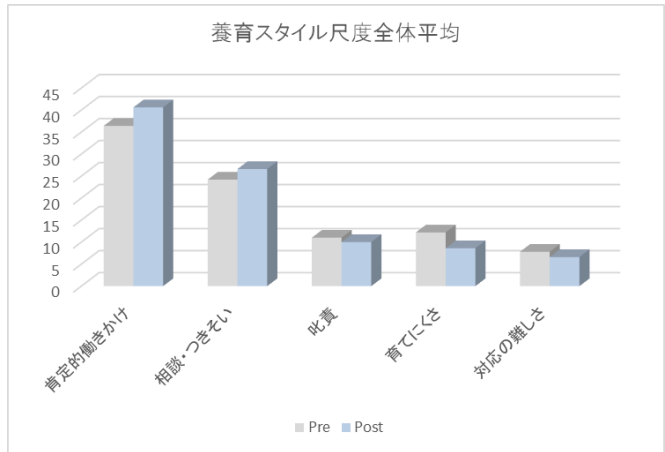


1-3-3 保護者の評価の変化(養育スタイル尺度)

保護者の養育スタイルを「肯定的働きかけ」「相談・つきそい」の肯定的な 2 尺度と「叱責」「育て

にくさ」「対応の難しさ」の否定的な 3 尺度で評価している。ペアレント・トレーニング実施前後の評価を比較すると、肯定的な 2 尺度はペアレント・トレーニング実施後に上昇し、否定的な 3 尺度は低下している。結果については下記表2のとおりである。

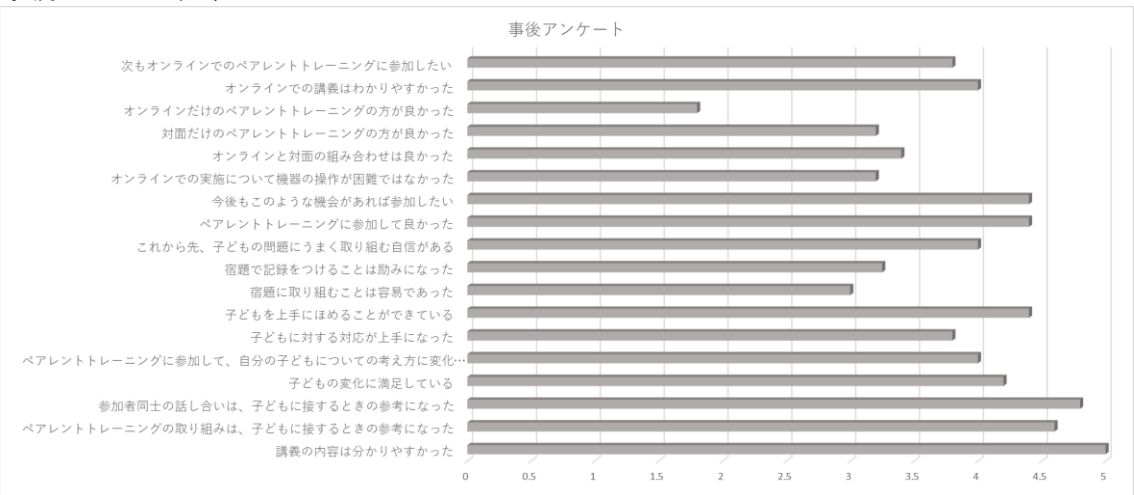
表2 養育スタイル尺度実施結果



1-3-4 事後アンケート

ペアレント・トレーニング実施後にプログラムの内容に関する事後アンケートを参加者に行った。結果は表3のとおりである。実施回数と開催時間は全員が適切という回答であった。参加人数については 1 名が「少ない」と回答し、他 4 名は「ちょうどいい」との回答であった。「講義の内容が分かりやすかった」「参加者同士の話し合いは、子どもに関わるときの参考になった」「子どもを上手にほめることができる」といった項目が高い評価であった。一方で、「オンラインだけのペアレント・トレーニングの方が良かった」「宿題に取り組むことは容易であった」は評価が低かった。

事後アンケート結果



自由記述で回答を求めた「ご自身の気づかれたこと・変化」については、褒めることに関連した気づきについての記述が多かった。結果は下記表4のとおりである。

表4 アンケート結果（自由記述）

ほめることの大切さ。もう少しちゃんと見てほめようと思いました。
ほめる事は子供にとって心の栄養になっているんだと思いました。ほめる事を意識すると、子の良いところが見れて、私の気づきにもなったし、しかる事が少なくなっているなと思いました。
一人で悩むことでも、同じ療育に通う親御さんの話を聞いて、同じ悩みを持っているのだなと思い、自分にも色んな考えが出てきて自信につながりました。
子どもをホめることは初めは不慣れで、ぎこちなかったと思うのですが、自然に「できたね」「すごい」などの言葉をかけると子どもが、とても嬉しそうに反応してくれたり、こちらも心から「よかった」と思えてお互い WINWIN でした。
ほめることはいいなと改めておもった。あまりほめられることのない年代？なのか、どういう風にほめる？とか考えるときもあるけど、トレーニングで意識してほめると、その結果もみようかと考えられて良かったです。

1-4 考察・今後の課題

HSQ では、評価が低下した参加者については、子どもをよく観察することで、気づきが増え、困難さ（課題）として捉えられるようになった。養育スタイル尺度では、ほめることのみを取り扱ったが、肯定的働きかけ（ほめる）以外の項目にも肯定的な効果が見られた。グループワークや講義の中で子どもと自分の関わりを客観的に考えたり、他の人の意見を聞くことで自身の子育てに関して視野を広げることができたと考えられる。本取り組みにおける養育スタイル尺度の結果は、事前から肯定的な評価であり、ペアレント・トレーニングの実施によりいずれの尺度もさらに肯定的な変化が見られている。この結果は、対象の保護者が療育教室に通っており、日々療育教室のスタッフとのやり取りの中で子どもの捉えを共有し、検討した経験のある保護者であったためであると考えられる。今後は、療育教室に通う前の保護者のグループに同じプログラムを実施し、プログラムの効果の検討が望まれる。

宿題に関しては、対面で1時間といった限られた時間内で十分活用しきれなかったことが考えられる。宿題の実施の負担よりも、実施した気づきを子どもとの関りの中で活用できたという成功体験につなげるようなワークの持ち方、内容の検討が今後必要である。時間を増やすことに加えて、宿題の用紙にコメントをつけて返す、最後にまとめて振り返る機会を作る、といった工夫が求められる。

オンラインの実施に関しては、参加者の積極的な発言は見られなかった。また、内容もメインファシリテーターの講義の一方向になった。また、アンケートからはオンラインだけではなく対面の必要性もうかがえた。そのため、今後は講義部分に関しては録画したものをオンデマンド研修として視聴し、その後対面で宿題のふり返りや、ワークを実施するといったオンデマンドと対面のハイブリットペアレント・トレーニングが考えられる。ハイブリットにすることにより、就労中の保護者が仕事の調整が必

要になるのは対面の日のみになり、参加しやすくなることが考えられる。また、自治体によって対面で実施する会場まで遠い保護者がいる場合は、オンデマンド研修を実施することにより、移動の負担が軽減されることが期待できる。

近年、ペアトレの実施を試みるも、保護者の高い就労率のため、参加者が定員に満たず実施が困難な状況が自治体によって報告されている。地域でのペアトレの普及のためには求められていることから、参加者が参加しやすい実施形態でのペアトレの実施について、今後はオンラインを使用したペアレント・トレーニングの実施について検討を重ねていきたい。

1-1 作成の経緯

滋賀県では本事業を開始するにあたって、1 年目に県内19市町への訪問調査・電話での聞き取りを実施してきた。3年間をかけて各市町の家族支援に対する意識は変化してきているが、市町担当者がペアレント・トレーニングについて詳しく知らない現状があることがわかってきた。また昨年度、滋賀県発達障害者支援センターが主催となり湖東圏域 4 町でペアレント・トレーニングを実施した際に、市町担当者から、研修の案内があっても業務が忙しく抜け出せないため、オンライン上で見ることができると良いとの意見があり、他市町からの聞き取りの中でも同様の意見が挙がっていた。

またそれから、WEB 上でペアレント・トレーニングの内容について公開されているものは 1 時間程度の長時間のコンテンツのものであるということも分かった。

これらの現状について、所内や専門家である小池由香里氏や望月基子氏へ共有したところ、WEB上で短時間で見れるペアレント・トレーニングについてのコンテンツがあるとよいのではないかとということとなり、動画を作成することとなった。

その後も所内での検討を重ね小池氏・望月氏との打ち合わせも実施する中で既存のペアレント・トレーニングの動画を活用する案などもあったが、滋賀県バージョンのものを作成することで決定した。

1-2 研修コンテンツの作成

研修コンテンツの内容については以下表1のとおりである。チラシは 2025 年 1 月に開催された「家族支援情報交換会」にて市町担当者に配布、その他家族支援に携わる支援者が集まる会議等で配布した。

支援者向けペアレント・トレーニング研修コンテンツ

目的

- ・市町担当者や家族支援に携わる方が業務の都合上多忙で研修などにも参加できない現状があり、ペアトレについて短時間で簡単に Web 上で内容を知ることができるようにするため。
- ・滋賀県内の家族支援の状況を担当者や家族支援に携わる関係者に知ってもらうため。

動画の内容

第 1 回「発達障害支援におけるペアレント・トレーニング」

講師：東京都手をつなぐ育成会 加藤永歳氏

第 2 回「滋賀県内のペアレント・トレーニングの状況について」 協力：長浜市発達支援室

第 3 回「実際のペアレント・トレーニングの様子」 協力：小池由香里氏・望月基子氏

- ・このコンテンツは第 1 回～第 3 回のシリーズになっています。
- ・3つの動画をご視聴いただき、事後アンケートへのご協力をお願いいたします。
- ・申し込みフォームは下記の QR コードを読み込み、表示された URL をコピーして動画をご視聴ください。



お問い合わせ先

滋賀県発達障害者支援センター

家族支援普及事業担当：前田・後閑

TEL:077-561-2522

MAIL:shigahattatsu2@gmail.com

1-3 視聴後アンケートの実施

動画を視聴するためには、チラシの QR コードを読み取り視聴の申し込みをすると、動画の URL が表示されるようになっている。動画の最後には視聴後のアンケート用 QR コードを表示するようにし、視聴後のアンケートを実施した。

2025 年 3 月 5 日現在、動画の視聴申込者数は 4 件で、視聴後のアンケート回答者数は 0 件である。

今後、各圏域の自立支援協議会等でチラシを配布し、広く子どもに関わりのある事業所への周知をし、興味はあるが研修に出にくい層へのアプローチに努めていきたいと考えている。

第6章 ペアレント・トレーニング実施市町へのアドバイザー派遣

滋賀県発達障害者支援センターでは、家族支援普及アドバイザーに就任いただき、各市町からの要請により、市町を訪問しペアレント・トレーニングの実施、推進に関する助言を行っている。今年度は1市からの要請により、アドバイザーを派遣した。

1-1 H市へのアドバイザー派遣までの経緯

H市発達支援センターでは2023年からペアレント・トレーニングを実施している。担当者がペアレント・トレーニングフォローアップ研修でスーパーバイズの仕組みを知り、これまでH市発達支援センター内の職員のみで考え継続して実施してきた中で、現状の課題に対して第三者からの客観的な意見が欲しいということで依頼されたという経過がある。

1-1-1 H市のペアレント・トレーニングプログラム

H市発達支援センターには、発達相談を受けている子どもへの関わり方や対応方法に悩んでいる保護者の方を対象にしたグループがある。そこでは、子どもの姿（行動）に焦点を当て、どう対応すればよいかをグループワークの中で具体的に学んでいくことで、子どもの理解を深め、よりよい親子関係を築くことを目的に開催している。H市ではこのグループの中の親子別活動の時間を使用し、以下表1、2のようなプログラムを実施している。

表1

対象者	発達相談を受けている5歳児の知的には遅れがないがコミュニケーションや集団参加などに課題のある児の保護者。
回数	概ね月1回、全11回。H市内に3会場。
時間	グループで活動する2時間のうちの1時間。
活動の流れ	14:00 集合・はじまりの会（今日のスケジュールや約束の確認など） 14:15 活動 15:00 親子別活動（保護者は別室でグループワーク） 16:00 おわりの会（振り返り） 16:30 終了

表2

日程	保護者のグループワーク	子どもの活動内容
①	オリエンテーション	親子遊び（自己紹介）
②	子どもの行動について考えよう①	フルーツバスケット
③	子どもの行動について考えよう②	みんなでつくろう

④	子どものいいところ探しをしよう	水で遊ぼう
⑤	褒め上手になろう①	音で遊ぼう
⑥	前半の振り返りと小学校について	夏の思い出を話そう
⑦	褒め上手になろう②	ことば遊び
⑧	効果的な声のかけ方①	忍者修行
⑨	効果的な声のかけ方②	クリスマス会
⑩	環境の工夫について	ルールを考えて遊ぼう
⑪	まとめ	得意なことの発表会

1-1-2 現状の課題

SVを実施するにあたりH市発達支援センターから事前に具体的な現状の課題について聞き取りを行った。結果は以下の通りである。

スーパーバイズ実施にあたって聞きたいこと

1. 両親が交互に参加する方への対応。事前に内容やホームワークについて共有はしてくださっているが、前回の内容を踏まえた話やこちらが伝えたいポイントの共有が難しいことがある。
2. ホームワークはやってきてくれているが、なぜそれをしてくるのか、ねらいが保護者に伝わりきっていないとすることがある。生活の中での困りごととペアトレの内容が繋がっていないとすることがある。
3. 講義の時間(割合)が長くなると保護者がどこまで話を聞いておられるのか、自分事とおられるのかとすることがある。かといって説明が短いとワークや話し合いでこちらのねらいとずれてしまったり理解できていないことが多い。
4. 年間を通したプログラムの組み立て方。基本的に行動について説明してからほめるをテーマにしているが、スタッフによっても異なる。組み立てるポイントなどあれば教えてほしい。
5. 講義をするときに一方的に話を伝えるだけになりがちで、本当に保護者が内容を理解できているのかがわからない。
6. 参加保護者にアンケートを実施しているが、この評価方法でよいのかがわからない。また分析方法もよく分かっていないため正しく評価もできない

1-2 H市へのアドバイザー派遣

H市発達支援センターと専門家である望月基子氏、当センターで打ち合わせを実施し、具体的なSVの内容としては、1回目に実際のペアレント・トレーニング見学、2回目に見学の結果を踏まえてプログラム全体の組み立て等も含めた内容や実施方法についてペアレント・トレーニングの実施者ではない相談員や保育士も参加して共有する場を設けるということとなった。

1-2-1 実施スケジュール

【1回目】

日時:2024年9月30日(月)13:00~16:00

会場:H市発達支援センター

派遣:家族支援専門家(ZOOM)・県センタースタッフ

目的:H市で行われているペアレント・トレーニングの見学・助言

【2回目】

日時:2024年11月1日(金)11:00~12:30

会場:H市発達支援センター

派遣:家族支援専門家・県センタースタッフ

目的:1回目に見学した内容についての報告・H市のペアレント・トレーニングについての意見交換

1-2-2 実施内容

アドバイザー派遣1回目では、ペアレント・トレーニングが実際に行われている場面を見学し、終了後にフィードバックを行った。標準的なプログラムよりも時間が短く、実施間隔が1ヶ月ごとであるなどの課題点は事前に聞いていたが、実際の場面を見ることで、参加者の学びにどのような影響を与えているかをより具体的に検討できた。

2回目では、ペアレント・トレーニングに関わる職員以外のセンター職員も参加し、H市の現状のリソースと課題、今後の保護者支援の展望について話し合った。間接的に事業に関わっている職員からの意見やペアレント・トレーニングが現在の実施形態になった経緯なども共有することができた。また、ペアレント・トレーニング以外の療育事業や他の子育て支援事業も含めたH市の家族支援全体についても話題に上り、今後のプログラムを考えていく際の指針となる話し合いができた。現在実施しているペアレント・トレーニングをどのように改変するかについて、具体的な内容までは十分に検討できなかったが、来年度以降のペアレント・トレーニングの位置付けや目的を整理した上で、再度話し合うこととなった。

1-3 実施結果・考察

2回の訪問から見てきたH市の特徴を以下にまとめた。話し合いの中で出てきた改善案等は「▶下線部」で表記した。

リソース	・PT実施3年目になり、実施スタッフはファシリテーターとしての技術を十分に身につけている。▶<u>スタッフの異動も考慮し、新たなスタッフを養成していく</u> ・知的な遅れは大きくないが集団場面で課題のある5歳児を対象としたグループであり、対象者の共通点が多い。 ・参加者は、発達相談の来談者から集められており、グループへの適性などが考慮されて
------	--

	いる。特に、児童発達支援の適応にならない子どもの保護者が対象であり、同じような立場の保護者と出会える貴重な機会になっている。 ・同時並行で子どもグループが開催されており、子どもの様子を共有しながら進められる構成になっている。▶<u>褒め方など具体的な対応を PT 中に考え、子どもグループと合流後に即実践してもらうこともできる</u> ・現在 PT を実施しているスタッフ以外にも PT の養成研修受講経験者や知識がある職員は多く、他の保護者グループで部分的に PT の要素を取り入れた実践をしている。
課題	・親子並行グループの一環として PT が実施されており、参加者の中には PT へのモチベーションが低い方がいる。▶<u>参加者募集の際に PT の説明をより丁寧に行う</u> ・変則的な実施構成で内容を十分に消化できない。具体的には、標準プログラム 1 回分を 2 回に分けて短時間で実施しているが、復習や HW のシェアの回数が増えるため、講義に十分な時間を割けない。▶<u>プログラムの目的を明確にして内容を取捨選択する。講義は動画にして時間を削減するの一案</u> ・共働きで父母が交互に参加する家庭も少なくなく、前回の内容の共有が十分になされていない場合がある。▶<u>オンラインの動画を作成するなど、復習しやすい方法を検討する</u> ・PT 実施前後にアンケートを取っているが十分に活用できていない。▶<u>評価尺度はプログラムの効果測定だけでなく、参加者のアセスメントにも活用していく</u>
今後の展望	・保護者だけの学習会では参加者が集まらないのではないかという考えから、現在の親子並行プログラムの形が採用されたが、PT だけを行う保護者グループを立ち上げるのも必要ではないか。 ・保育所等訪問支援事業の保護者支援をどうするかが検討課題として上がっており、PT を実施するのも一案かもしれない。 ・就学後や思春期年代の保護者への支援も課題となっており PT を取り入れることができないか。▶<u>思春期年代に実施する際には標準プログラムからのアレンジが必要</u> ・内容を取捨選択して実施する場合においても、実施者として、標準的なプログラムの知識は必要である。▶<u>職員研修として PT の内容を扱うことを検討する。療育スタッフとも PT の内容を共通理解できる</u>

ペアレント・トレーニングが家族支援の重要なメニューの一つであることは、すでに支援者の間で共通理解のものとなっている。誰が実施するか、参加者をどう集めるかなど議論を重ねながら、地域の実態に合わせて工夫し導入が進められてきた。H 市の場合は、既存の親子並行療育グループの保護者向けプログラムの部分を拡充する形で導入された。そのため、1 回 60 分、全 11 回、月 1 ペースという変則的な構成になっている。様々な理由からこの実施形態が選択されたが、ペアレント・トレーニング導入当時、関わり方を学ぶことへの保護者の関心が低く、保護者だけの会では参加者が集まらないのではと考えたこともその一因であった。子どもの療育とセットにすることで、保護者の来所意欲を高

めるねらいがあった。実施スタッフは、変則的な構成のなかで、ペアレント・トレーニングの標準プログラムの内容どのように伝えられるか、検討を重ねながら取り組んでいた。しかし、現在の構成のままで、本当に有効なプログラムになっているか疑問を感じるようになり、今回のアドバイザー派遣に至った。

実際のペアレント・トレーニングプログラムの見学や所内での会議を通して、実施スタッフの技量は十分あるものの、実施形態の変則さ等がネックとなり、保護者の内容理解が不十分な状況が生まれてしまっていることがわかった。今までペアレント・トレーニング主体でプログラム内容が決められていたが、この療育グループに合わせて内容を再構成していく必要性が共有された。児童発達支援の枠組みに当てはまらない就学前年度の子どもの保護者が参加しており、保護者同士の仲間づくり、子どもの特性理解、保護者の相談や伝達スキルの向上など、ペアレント・トレーニングで直接扱う内容以外の部分にも重要なテーマがあることを確認した。

その一方で、学びたい保護者のためにペアレント・トレーニングの標準プログラムを実施することも必要ではないかという点も話題に上った。ペアレント・トレーニング導入時は保護者だけを集めることは難しいと考えていたが、数年で状況も変わっており、一度参加者を募ってみるのも良いではないかという意見が出た。また、保育所等訪問支援の利用児や就学後の療育グループなど、他の対象で実施する案もあがった。今回のアドバイザー派遣の機会を通して、ペアレント・トレーニングプログラムそのものだけでなく、ペアレント・トレーニングを市内の子育て支援、発達支援サービスにどう位置づけられるかという視点で議論することができた。

滋賀県発達障害者支援センターでのペアレント・トレーニング研修では、各自治体での実施内容や課題を共有する時間が設けられていて、自市町の取り組みを振り返る良い機会になっている。H市の課題も研修内で度々共有されており、今回のアドバイザー派遣に繋がった。ペアレント・トレーニングはプログラムを新たに導入するのと同じかそれ以上に、運営を維持しブラッシュアップしていくことが重要である。研修では、ペアレント・トレーニング導入前の自治体が先行している自治体からアイディアをもらったり、逆に新たに始めた自治体の工夫が長年取り組んでいる自治体の課題解決に役立ったりといった好循環が生まれている。今回はH市への派遣であったが、この内容が次の研修で共有されることで、県全体での家族支援の充実の一助となることが期待される。

第7章 今後の方向性について

1-1ファシリテーター養成研修、フォローアップ研修、ニーズ別研修の実施

これまで開催してきた、ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修を引き続き実施していき、県内のペアレント・トレーニングを継続実施、あるいは、新規で実施していただけるようファシリテーターの養成に努めていきたい。また、フォローアップ研修を実施していくことで、実際にペアレント・トレーニングを実施しているが、市町が当者の育成をするには、もうしばらく時間が必要だと感じている市町に対して有効な研修として認識している。また、まだ実施していない市町に対しても、お互いの市町の状況を知り、意見交換ができる場として貴重な機会であると考えている。今年度好評であったニーズ別研修も、各市町担当者のニーズを把握したなかでテーマを設定し、研修を実施することで、それぞれの担当者が不安の中で実施しているペアレント・トレーニングを、自分たちの実施方法の確認や悩みを解決する研修と位置付け、提供していきたいと考えている。

1-2ペアレント・トレーニングのオンライン研修実施に向けた検討

今年度のニーズ調査結果から、次年度オンライン研修の実施を検討する。その実施方法は、今後の検討段階ではあるが、オンライン研修に一定のニーズがあることも調査結果から読み取れるため、県内全域を対象とした研修とする。このオンライン研修を実施した結果により、人口規模の小さな市町でなかなか実施できないペアレント・トレーニングを県センターが主催で実施していくことができるのではないかと考えている。

1-3市町が継続的にペアレント・トレーニングを実施するために

市町がペアレント・トレーニングを継続的に実施するために必要なサポートとして何が 필요한のかをまとめていきたい。その一つとして、上記のファシリテーター養成研修、フォローアップ研修やニーズ別研修を引き続き実施することであると考えている。それ以外に県発達障害者支援センターがサポートできる部分がどこなのか、例えばオンラインペアトレに仕組みを作ることや、オンデマンド配信を可能にするために講義部分を配信する等、市町のニーズに合わせて、可能な限り要望に応えていくことで、ペアレント・トレーニングを実施した市町が継続していくことの一助となるのではないかと考えている。

2024 年度発達障害児者地域生活支援モデル事業

ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修事業 報告書

発行日 2025 年 4 月

発行 社会福祉法人グロー（GLOW）滋賀県発達障害者支援センター
南部センター（滋賀県草津市笠山 8-5-130 滋賀県医療福祉相談モール内）
北部センター（滋賀県彦根市日夏町堀溝 3703-1 平和堂日夏店 2F）

